東京音楽大学リポジトリ
Tokyo College of Music Repository

まえがき

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武石, みどり, Takeishi, Midori メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1297

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

まえがき

武石みどり（音楽学）

本冊子は、2018 年度本学博士課程の選択科目「博士共同研究 B」において論じた問題について、参加者の報告と所見をまとめたものである。

博士共同研究 B は、2014 年度以来「演奏解釈論の総合的研究」として、演奏にかかわる諸問題についてさまざまな角度からのアプローチを試みてきた。今年度は、作曲家が作曲した時とその作品が演奏される時の間に多くの場合「時差」が生じ、それに起因して楽譜や演奏解釈の相違が生まれることに着目し、参加者各々の立場から具体的な問題について報告し、それについて全員で討論するという形で授業を進めた。各回の内容は次ページに示したとおりである。

春学期には、学生と教員がそれぞれの専門分野における「時差」の問題例を報告して討論した。そこから、「時差」は単に作曲家と演奏家の間に、あるいは時代の違いにあるばかりでなく、作曲家本人においても改訂や実演の中に生じうることがわかってきた。こうした論議を参考にしながら、秋学期には学生がそれぞれ自分の考察課題を絞り込んだ。また 10 月には博士共同研究 A との合同により、パリ国立高等音楽院教授イヴ・バルメール氏による特別講演『モデルと創意――メシアンと借用の技法』を聴き、第一線の研究者の方法論やプレゼンテーション・テクニック、質疑応答を間近に体験する刺激的な機会となった。

日付	内容	報告者
4月9日	ガイダンス　博士共同研究Aと合同　今年度の指針を確認	
4月16日	ガイダンス　博士共同研究Aと合同　今年度の参加者確認	
4月23日	テーマ「作曲した時、演奏する時」について各自の問題意識を発表	
5月7日	テーマ「作曲した時、演奏する時」について各自の問題意識を明確化	
5月14日	音楽における「時差」序論	村田教授
5月21日	モーツァルト「レクイエム」補作について オペラにおける「作曲した時、演奏する時」	福地 星洋二准教授
5月28日	トスティ*Idealе*における「作曲した時、演奏する時」 バルトーク「ミクロコスモス」103番の演奏法	栗原 武石教授
6月4日	バッハ「無伴奏チェロ組曲」の楽譜と演奏法 任意装飾の奏法	フェイギン教授 村田教授
6月11日	ハイドンのトランペット協奏曲 バルトーク「ルーマニア民族舞曲」Sz.56にみられる「時差」	津堅教授 鈴木
6月18日	ハイドンのトランペット協奏曲(続) 日本音楽の伝承と楽譜の関わりをとらえる—能管を例に	津堅教授 加藤教授
6月25日	ピアノ音楽に見られる「時差」—楽器と奏法	岡田教授
7月2日	トスティ*Idealе*における「作曲した時、演奏する時」(2)	栗原
7月9日	「コジ」から離れて230年、孤高のアリアKV584をめぐって	福地
7月16日	リスト「ハンガリー狂詩曲」第11番における「作曲した時、 演奏する時」	鈴木
7月23日	春学期の振り返りと成果発表の計画	
9月17日	ノヴェロ編纂によるモーツァルト・ミサ曲集の功罪	福地
9月24日	トスティ*Idealе*における「作曲した時、演奏する時」(3)	栗原
10月8日	ドホナーニの演奏家と作曲家としての顔 —バッハの「イタリア協奏曲」と自作曲	鈴木
10月15日	作られる時と弾かれる時—スクリャービンを例に	岡田教授
10月22日	バルメール氏の特別講演に向けての準備	藤田准教授
10月29日	特別講演　モデルと創意—メシアンと借用の技法	イヴ・バルメール
11月12日	モーツァルトのコンサートアリアにおける装飾音の問題 — 作曲された時と演奏する時 報告書の書式について	福地 村田教授
11月19日	コンポーザー・ピアニストに見られる時差—ドホナーニ最晩年の演奏	鈴木
11月26日	トスティ*Idealе*における「時差」—「作曲した時、演奏する時」	栗原
12月3日	モーツァルトのコンサートアリアKV294における装飾音の問題 トスティ*Idealе*における「時差」	福地 栗原
12月10日	ドホナーニ最晩年の演奏 モーツァルトのコンサートアリアKV294における装飾音の問題	鈴木 福地
12月17日	モーツァルトにおける「時差」を超越する意思 —コンサートアリアKV294の装飾を出発点として トスティの*Idealе*における「時差」	福地 栗原

合計 27 回の授業を通して、指導に重点を置いたのは以下の 2 点である。

①口頭発表において自分の論点を絞り、レジュメ（紙媒体）や音源（聴覚)、画面（視覚）を通してその内容をわかりやすく伝えること

③討論で得られた批判や意見を充分に理解した上で、自分の考えをまとめ直し、論拠と結論とが明確な発表になるように推敲を重なること

このような方針の下に、各学生は自分の事例研究の課題を絞り、後掲の研究報告を作成した。報告の作成にあたっては、各学生の論文指導教員のご協力を得たことについても付記し、感謝の意を表したい。

博士共同研究 B　参加者

教員（専攻）	学生（専攻）
岡田敦子（ピアノ）	鈴木啓資（ピアノ）
フェイギン・ドミトリー（チェロ）	栗原光太郎（声楽）
星　秀樹（コントラバス）	福地勝美（音楽学）
小串俊寿（サクソフォーン）	
津堅直弘（トランペット）	
星　洋二（声楽）	
糀場富美子（作曲）	
藤原豊（作曲）	
加藤富美子（音楽教育）	
武石みどり（音楽学）	
村田千尋（音楽学）	